# はじめに

昨年１２月、安倍内閣が誕生し、日本経済に好転の兆しが見えはじめ、世の中に前向きな雰囲気が生まれてきました。

経済の再生とともに安倍政権におけるもう１つの柱が、「教育の再生」です。教育再生実行会議からは、「いじめ防止対策基本法」の成立、「教育委員会制度」の抜本的見直し、「幼児教育」の無償化、「土曜授業」の実現などさまざまな教育改革が提言されています。

また、今年４月から、高校１年生から学年進行で新しい学習指導要領が全面実施となり、小・中・高等学校の足並みが揃います。新学習指導要領が掲げる『生きる力』は、グローバル化する社会への対応や東日本大震災をはじめ、今後、想定される自然災害等を生き抜く上でも、次代を担う子どもたちに身につけさせることが強く求められる「力」の根幹をなすものです。

このような中にあって、今、「いじめ」や「体罰」による生徒の自殺をめぐって、教育委員会や学校の管理運営能力が問われています。このような問題を未然に防ぐためには、普段から、学校の「教育力」や「自浄能力」を高めていくことが何より肝心です。学校全体を取りまとめる管理職のリーダーシップとマネジメント能力が不可欠です。

管理職は、教師１人ひとりの資質とモチベーションを高め、保護者との信頼関係を築き、地域に対しても協力が得られる学校経営が必要です。さらに、教育委員会や関係機関等との緊密な協力体制を確立することです。管理職は、常に「緊張感」と「危機意識」を持って職務を遂行することが大切です。キーワードは、『油断大敵』、『用意周到』、『臨機応変』です。

そして、教員は、教師力を磨き、子どもたちに「基礎的・基本的な知識や技能」をしっかりと定着させ、「思考力・判断力・表現力」を培い、「学習意欲」を育くんでいかなければなりません。また、家庭や地域と協力して、これまで言い尽くされてきたことですが、『生活習慣・食習慣・学習習慣・読書習慣』をしっかりと育くむことが大切です。「自らの挨拶」、「毎日欠かさない朝ごはん」、「毎日欠かさない家庭学習」、「毎日欠かさない読書」は、生涯にわたって自分自身を高める「基本中の基本」です。

「良い習慣は才能を超える」と言われますように、子どものうちに、これら４つの『よい習慣』を徹底的に身につけることは、その子のこれからの「人生」において、計り知れない力となるものと思います。

平成２５年３月

伊丹市教育長　木下　誠